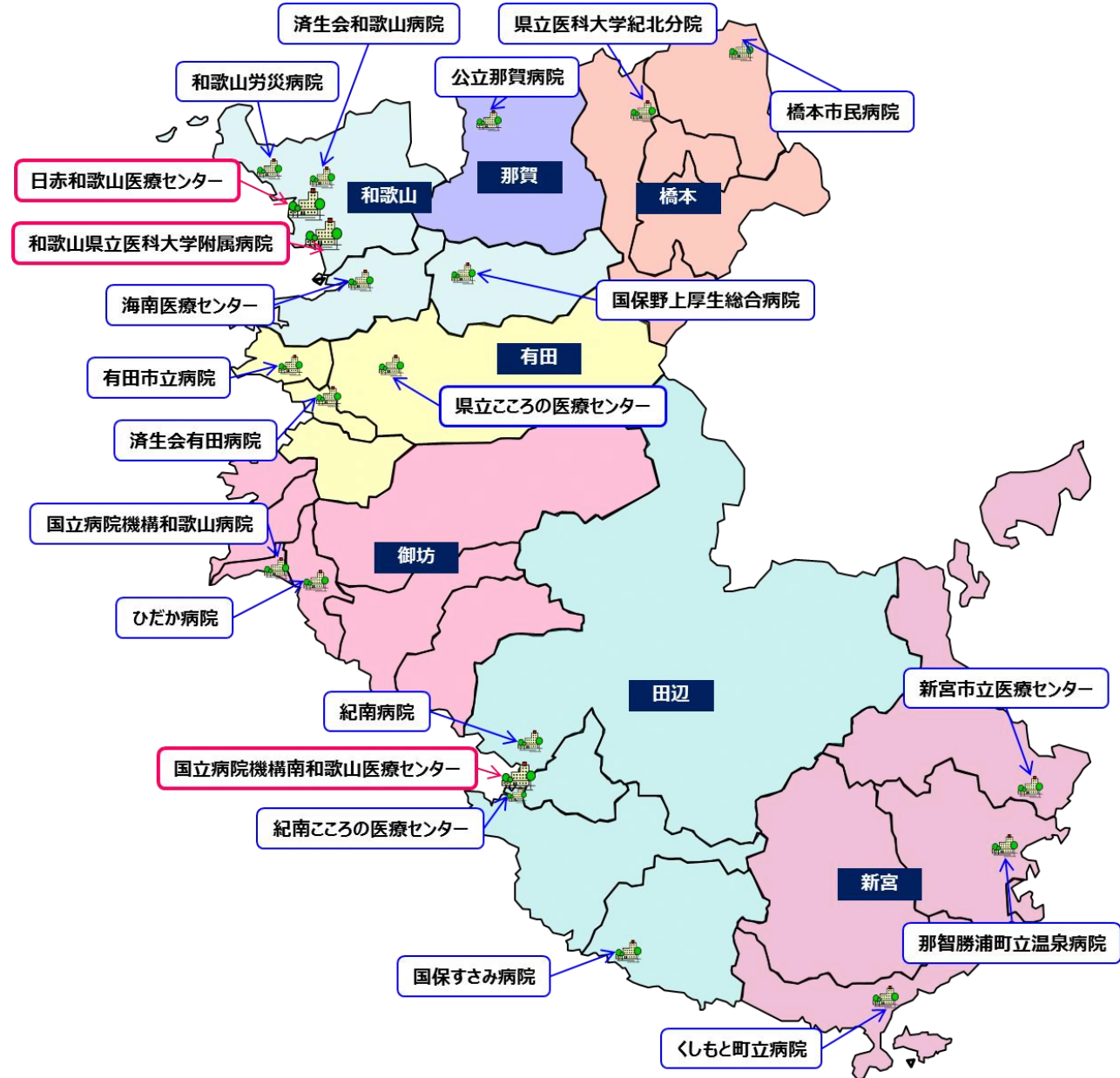


遠隔救急支援システムを活用した 救急医療体制について

和歌山県 福祉保健部 健康局 医務課
地域医療班長 安居 睦

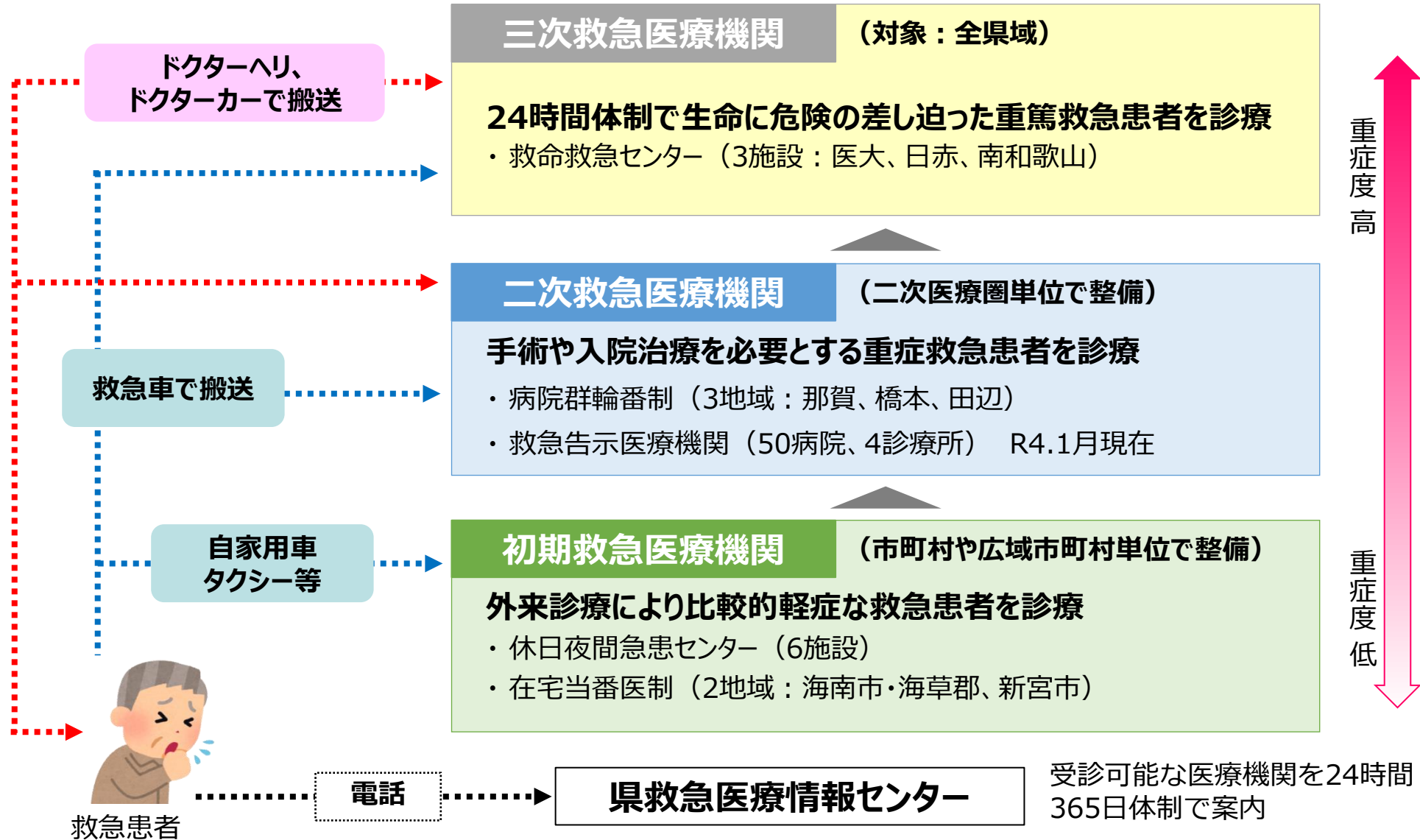
和歌山県の地域医療の概況

- 紀伊半島は我が国最大の半島地域であり、**山間・へき地が多い**
- 和歌山市の県立医大附属病院をはじめ**半数以上の病院が県の最北西部に集中**
- 各二次保健医療圏には拠点となる公的病院等が配置

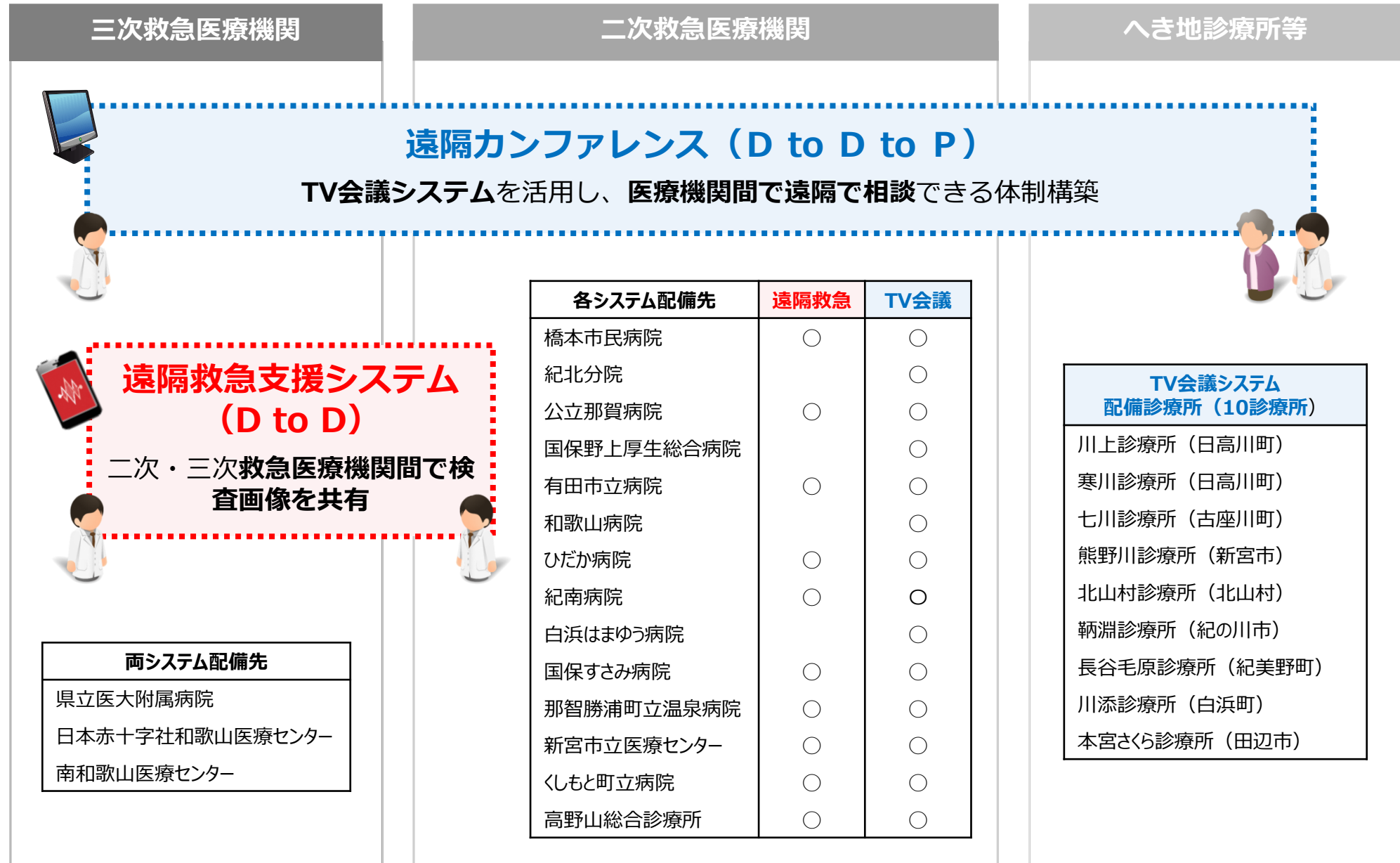


和歌山県の救急医療体制

傷病者に対し迅速かつ適切な医療を行うため、傷病の程度に応じ、初期から三次までの救急医療体制を整備

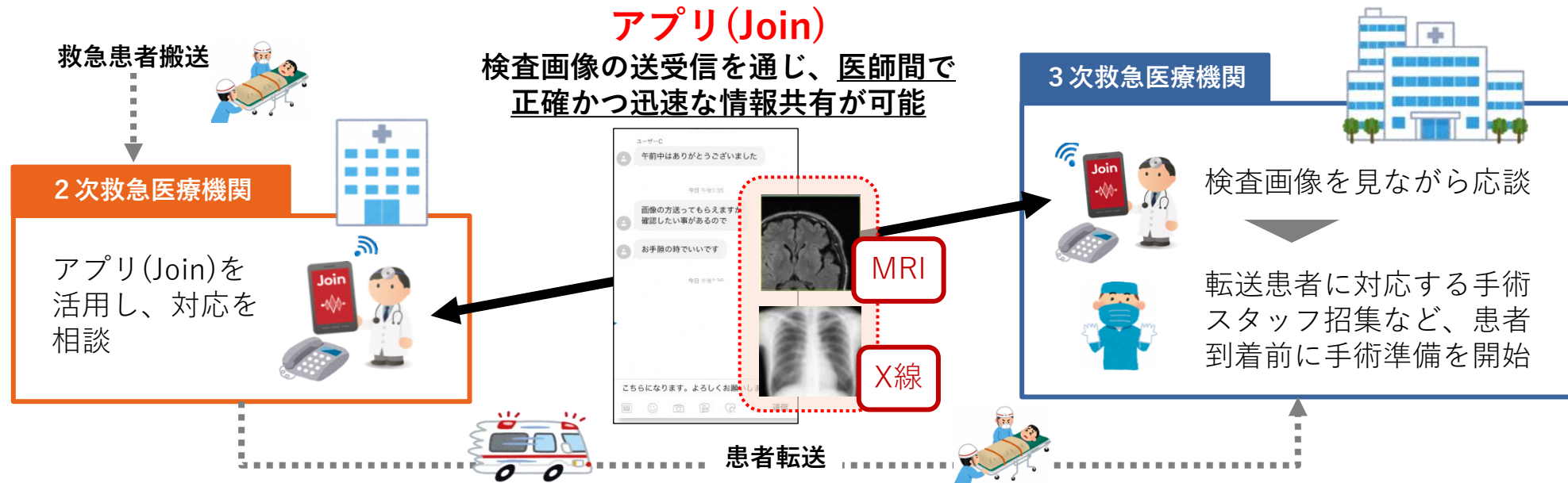


和歌山県の遠隔医療提供体制



遠隔救急支援システム (D to D)

- スマホアプリ「Join」(汎用画像診断装置用プログラム)とモバイル端末を活用し、3次救急病院(医大・日赤・南和)と2次救急医療機関(公立病院等)の連携を強化する「遠隔救急支援システム」を構築
- 二次・三次医療機関間で検査画像を共有し、専門医以外が診察した場合でも、遠隔(院外)から専門医が助言・指示することで、不要不急の3次病院への転送を防止するとともに、3次病院の手術等の受入態勢を迅速に整えることで、救急医療の充実を図る



【遠隔救急支援システムの対象疾患】

- ① 脳卒中
- ② 急性冠症候群
- ③ 急性大動脈解離
- ④ 医療機関間で支援を合意した疾患

【メリット】

- ① 来院から処置までの時間を短縮
※慈恵医大報告239分 → 97分(脳神経外科)
- ② 早期の処置により予後が良好(自立度が向上)
※徳島県海部病院報告(脳卒中)

遠隔救急支援システム配備先

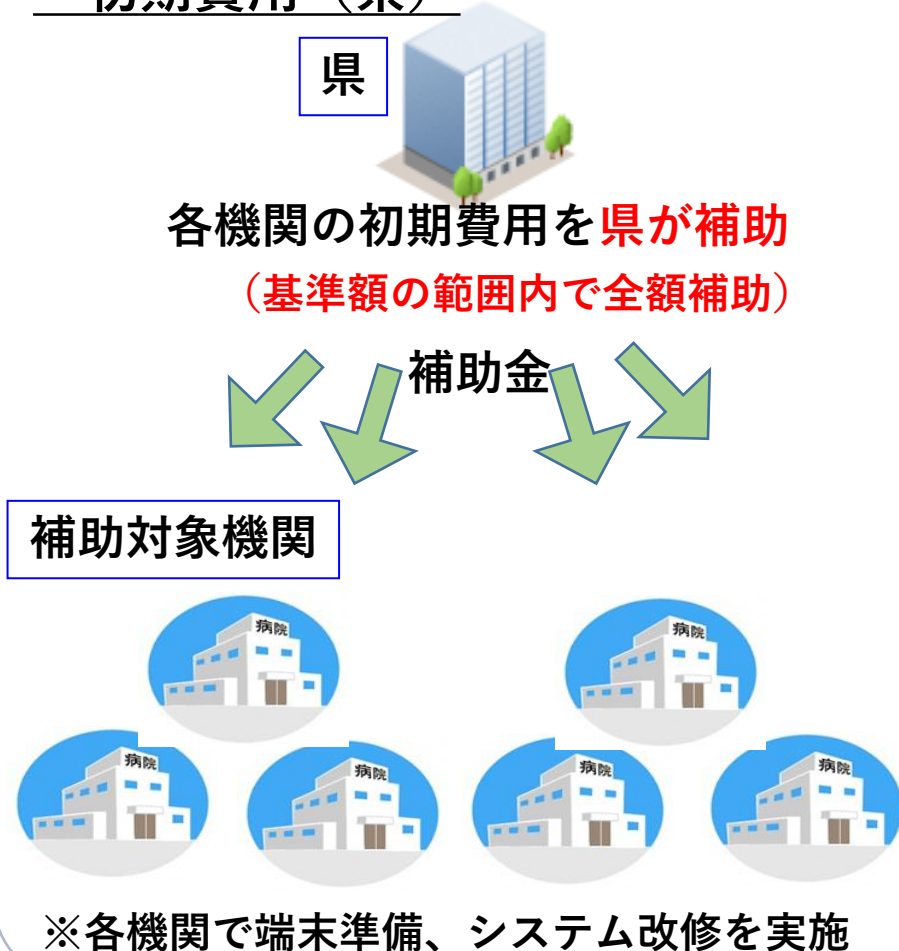


No	配備医療機関名
1	和歌山県立医科大学附属病院
2	日本赤十字社和歌山医療センター
3	公立那賀病院
4	橋本市民病院
5	高野町立高野山総合診療所
6	有田市立病院
7	ひだか病院
8	独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センター
9	紀南病院
10	国保すさみ病院
11	新宮市立医療センター
12	那智勝浦町立温泉病院
13	くしもと町立病院

遠隔救急支援システムの体制

- 初期費用（端末購入費用、システム改修）は県がH29～H30年度にかけて補助（地域医療介護総合確保基金活用）
- 導入後のランニングコストは各医療機関負担
- 大枠の運用ルールは遠隔医療推進協議会で策定

・初期費用（県）



・ランニングコスト（ランニングコスト内訳）

- ・ランニングコストは各医療機関が負担

サーバー利用料

ID利用料

通信費

・運用ルール

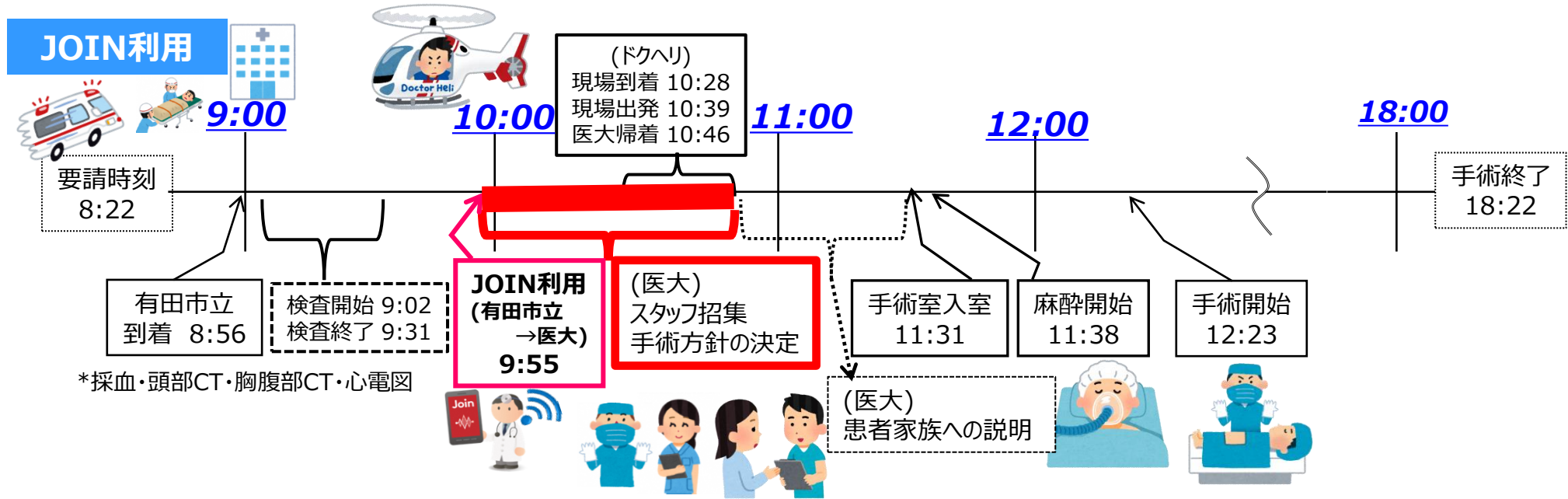
全体

- ・遠隔医療推進協議会で大枠の運用ルールを調整・策定

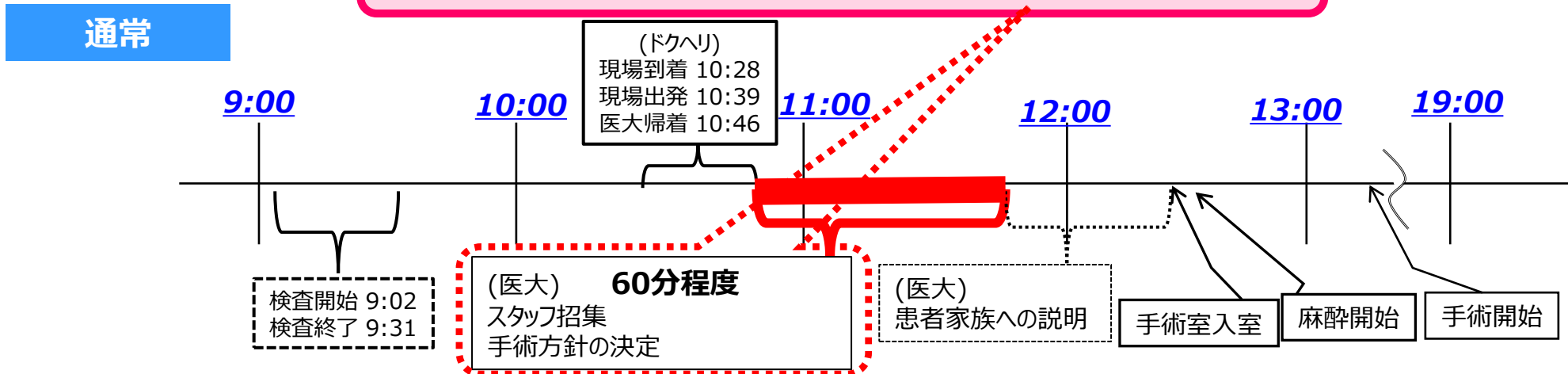
システム導入医療機関での運用ルール

- ・システム導入医療機関で県全体の運用ルールをもとに、院内運用ルールを整備

脳神経外科医不在の地方二次救急病院と高度救命救急センター間の活用例



医大到着から手術開始まで**約60分短縮!!**



令和3年度遠隔救急支援システム利用実績

利用実績：198件

